

1 本年度の予定

1. 学校から職業世界への、あるいは青年期から成人期へのトランジションを扱った longitudinal study を蒐集し、レビューを行う。欧米の論文を中心として、調査の設計と方法、分析枠組み、分析方法、知見等を整理する。

2. COEプログラム・プロジェクトⅢと連携する。受講者は、同プログラム・セミナーへも積極的に参加すること。第1回シンポジウム配付資料を参照。

3. この分野での世界的に著名な縦断的研究には、下記のものがある。これを順次読み進める。

1) TIMSS 第3回国際数学・理科教育調査

国際教育到達度評価学会。1964年から継続的に実施されている。初等中等教育段階における算数・数学、理科の教育到達度を、国際的な尺度によって測定し、児童生徒の環境条件等の諸要因との関係を研究。

2) Wisconsin Longitudinal Study

ウイソコンシン州マディソン大学社会学部が実施。Sewell, W.H.、Hauser, R.M.らの研究者が参加。The National Institute on Agingなどが助成。同州における1957年度のハイスクール卒業生約1万人を対象にした長期的パネル研究。アメリカの青年を対象にした時系列的調査の中で、初の大規模調査。青年期から50歳代半ばまでのライフコースに関する研究を可能とする貴重な調査となっている。

3) Family First

カリフォルニア大学リバーサイド校における、Park, R.らによる共同研究。家庭における経済的問題、ストレスが夫婦関係や養育行動を通じて、どのように青年期の発達(精神的健康、問題行動、学業達成)に影響するかが中心的課題。5~7学年の子どもとその父親、母親278家族を対象。

4) Youth Development Survey

ミネソタ大学ライフコースセンター、Mortimer, J.T.らが実施。1988より開始。当初の関心は、ティーンエイジャーの雇用問題。学校から労働への移行において、制度的構造や agency の有無は、将来設計にどう影響するのか→ドイツ(apprenticeship)とアメリカ(open-ended situation)の比較を実施。St. Paul public school system の第9学年在籍者からランダムに抽出。最初の4年間(1988-1991)は、在学中に調査。卒業後は mail survey。冒頭で、月ごとの life course calendar を尋ね、このほか教育経験、労働経験、家族形成などを質問。在学時(1988と1991)に、保護者調査(父母とも)。

5) National Survey of Health and Development (1946 コーホート)

6) National Child Development Study (1958 コーホート) NCDS

7) 1970 British Cohort Study BCS70

8) National Education Logitudinal Study

9) High School & Beyond

II 報告者の任務

- 1) 次回の報告者は、ゼミの終わりに、次回の文献を確認する。
- 2) 別紙レジュメの形式に従って、レジュメを作成の上、1週間前までに、ボックスに入れておく。
- 3) 同時に、文献のオリジナルを、ボックスに入れておく。
- 4) 文献中に出現する、概念、理論、方法、参照研究のうち、重要と考えられるものについては、あらかじめ調べた上で報告を行う。
- 5) レジュメは、サンプルを参照のこと。
- 6) 報告当日の、司会進行

III 出席者の義務

- 1) 出席、報告、討議への参加、最終レポート
- 2) 取り上げる文献、レジュメをあらかじめ読んでおくこと
- 3) 議論を生産的なレベルに保つこと
- 4) 討議の後、当日の review の質と presentation に関して、長所・短所を指摘すること。
- 5) 自分の専攻領域とは離れているように思われる論文ではあっても、「もし自分であれば、どう評価するか、研究計画を立てるか」などを考えること。

IV 当面の予定

第1回(4月21日) YDSの概要 報告者 茶谷

第2回(4月28日) Jeylan T.Mortimer and Helga Kruger(2000) “Pathways from School to Work in Germany and the United States” 報告者 風間

第3回(5月12日) Jeylan T.Morimer,Carolyn Harley,and Pamela J.Aronson(1999) “How Do Prior Experiences in the Workplace Set the Stage for Transitions to Adulthood?”
報告者 小林

第4回(5月19日) ウィスコンシン調査の概要と文献の紹介 報告者 玉乃井